

バラ新品種 ‘マリアージュシャルマン’ の育成経過とその特性

原 靖英

Breeding Process and Characteristics of ‘Mariage Sharmant’, a New Greenhouse Rose

Yasuhide HARA

摘 要

‘マリアージュシャルマン’は、2000年に、当所育成の中間母本 86-44 と ‘アリーナ’ の交配により育成されたスプレータイプの切り花用バラ品種で、2005年8月に種苗法による品種登録申請を行い、2009年2月に品種登録(第17564号)された。花色は花弁表面中央部が鮮紫ピンクのぼかし模様、縁部は紫ピンクである。花形は高芯咲き、花弁のタイプは半剣弁で、花弁縁部には波打ちがみられる。花弁数は31.3枚、花径は満開時7.1cmで、スプレー品種としては中程度の大きさである。花は1花茎あたり8.4輪で、スプレーフォーメーションは良好である。切り花用として年間を通して安定して収穫することができ、到花日数は秋期58日、冬期64～66日である。

キーワード：切り花用バラ、スプレータイプ、育種、ピンク色

Summary

‘Mariage Sharmant’, a new spray type cut rose cultivar, is bred by the cross hybridization of an unnamed seedling 86-44 with ‘Arena’ in the spring of 2000 and has been registered for the Japanese Seeds and Seedlings Law as No. 17564 in February 2009. Flower color is strong purplish pink shading off type on the petal center upperside while the petal edge upperside is purplish pink. Flower shape is high-centered with moderately sword-shaped petals and waving in the petal edge. Average petal number is 31.3. Flower size is 7.1 cm in the diameter, the same size to ordinary spray type cultivars. Each flower stem usually bears 8.4 flowers with good spray formation. Cut flowers can be constantly harvested throughout the year. Days from flowering to harvesting are 58 days in the autumn and 64-66 days in the winter.

Key words: cut rose, spray type rose, breeding, pink petal color

緒 言

神奈川県では古くから花き園芸が発達しており、バラを始めカーネーションやスイートピーなどの切り花、シクラメンなどの鉢物、パンジーなどの苗物の栽培が盛んである。その中でも、バラは国内有数の産地

であり、2008年統計(農林水産省)では栽培面積18.5ha、出荷量1,620万本、栽培戸数約80戸となっている。

神奈川県農業技術センターでは、昭和54年(当時は神奈川県園芸試験場)より、日本の気候条件や作型、消費動向にあった品種を育成することを目標に、バラ

の育種に取り組んできた。これまでに、スタンダードタイプの‘ブライダルソニア’（大川 1983）, ‘フレンドソニア’（大川 1983）, ‘湘南ファンタジー’（林 1989）, スプレータイプの‘ラブミーテンダー’（水野ら 1993）, ‘ブライダルファンタジー’（水野ら 1993）, ‘スターマイン’（富田ら 1994）,

‘湘南キャンディレッド’（原ら 2005）, ‘湘南キャンディピンク’（原ら 2006）, ‘湘南キャンディルージュ’（原ら 2006）の 9 品種が種苗法により品種登録された。

バラの品種に求められる特性としては、花や草姿の美しさ、栽培の容易さ、高い生産性、花持ちの良さなどさまざまである。特に、近年の切り花栽培用バラ品種は、消費の多様化に対応したオリジナル性の高い花色や花形、安定した採花本数を有することが重要な要素となっている。

そこで、近年では切り花バラ生産者の経営の安定化を図るためにも、新規性を有し、高い生産性を持つ「新たな神奈川県オリジナル品種」の育成に取り組んできた。その結果、新たにスプレータイプの品種‘マリアージュシャルマン’を作出し、種苗法により品種登録されたので、その育成経過と品種特性について報告する。

育成経過

‘マリアージュシャルマン’は、当所で育成した中間母本 86-44（‘ミミローズ’×中間母本 83-16）を種子親に、‘アリーナ’を花粉親に用い、交配によって得られた品種である（図 1）。種子親の中間母本 86-44 は、花色が濃いピンク色のスプレータイプの系統であり、その親には日本で最初に導入されたスプレータイプの切り花用品種である‘ミミローズ’、中輪多収性のフロリバンダ系切り花用品種である‘ゾリナ’、赤系の切り花用ハイブリッドティ系品種である‘サマンサ’等が用いられている。一方、花粉親である‘アリーナ’は、花色が淡黄ピンク色のスプレータイプで、非常に花付きが良く、1 枝当たりの花数が多い品種である。

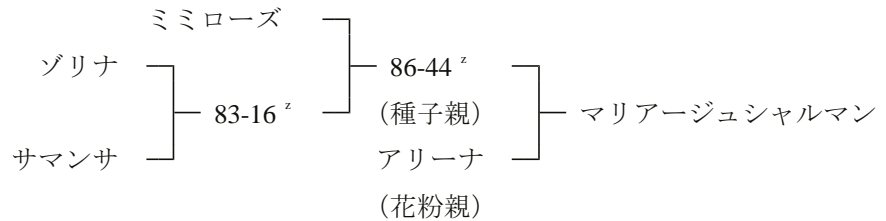


図 1 ‘マリアージュシャルマン’の育成系統図

^z 神奈川県農業技術センター育成中間母本

交配は 2000 年 5 月に行い、同年 10 月に結実した果実を採取、得られた種子は同年 11 月に播種し、2001 年 4 月の初花開花時に花色・花形等が優良である個体を選抜し、系統 01-62 というナンバーを付けた。その後、自根苗及びノイバラ (*Rosa multiflora*) を台木とした切り接ぎ苗において切り花用品種としての品質及び養液耕アーチング栽培法における生産性などについて検討した。その結果、花色が良く、スプレーバラとしての草姿に優れ、収量が高い等の優良品性が認められたことから、2005 年 8 月に新品種として種苗法による品種登録出願を行い、2009 年 2 月に品種登録（第 17564 号）された。

形態的特性

‘マリアージュシャルマン’は、ピンク色の切り花用スプレータイプの品種である（図 2）。花色は、花弁表面中央部が鮮紫ピンク（日本園芸植物標準色票カラーコード 9204）のぼかし模様、縁部は紫ピンク（同 9203）で、対照品種の‘ミミローズ’及び‘ラブミー



図 2 ‘マリアージュシャルマン’



図3 ‘マリアージュシャルマン’ (01-62) 及び対照品種の花の特性



図4 ‘マリアージュシャルマン’ (01-62) 及び対照品種の草姿

表1 ‘マリアージュシャルマン’ 及び対照品種の花色²⁾の特性³⁾

品種名	花弁表面		花弁裏面	
	中央部	縁部	中央部	縁部
マリアージュシャルマン	鮮紫ピンク (9204) ぼかし模様	紫ピンク (9203)	淡紫ピンク (9502)	淡紫ピンク (9502)
ミミローズ	淡ピンク (0102)	淡ピンク (0102)	淡紫ピンク (9702)	淡紫ピンク (9702)
ラブミーテンダー	鮮紫ピンク (9504)	鮮紫ピンク (9505)	淡紫ピンク (9502)	紫ピンク (9503)

²⁾ 日本園芸植物標準色票による。()内はカラーチャートの番号。

³⁾ 栽培は土耕で、切り接ぎ苗を2004年6月に定植。栽植密度は株間20cm、条間20cmの2条植え。切り上げ栽培を行い、冬期の最低気温は18℃、換気温度は23℃で管理。特性は2005年2月に調査。

表2 ‘マリアージュシャルマン’ 及び対照品種の花形質の特性²⁾

品種名	花形	弁型のタイプ	縁の波打ち	花径(cm)	花弁数(枚)
マリアージュシャルマン	高芯咲き	半剣弁	中	7.1	31.3
ミミローズ	高芯咲き	丸弁	弱	9.1	28.3
ラブミーテンダー	高芯咲き	丸弁	弱	8.5	29.8

²⁾ 栽培条件は表1に準ずる。

表3 ‘マリアージュシャルマン’ 及び対照品種の草姿、花持ちの特性²⁾

品種名	1茎の花数(輪)	花茎の硬さ	花持ち ³⁾
マリアージュシャルマン	8.4	中	長
ミミローズ	7.6	やや軟	中
ラブミーテンダー	9.6	やや軟	やや長

²⁾ 栽培条件は表1に準ずる。

³⁾ 室温20℃条件下において 長：9日程度 中：6日程度

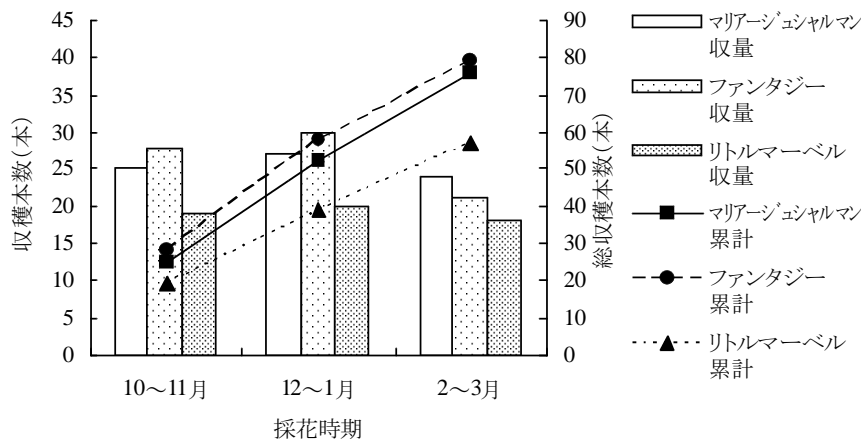


図5 ‘マリアージュシャルマン’及び対照品種の収量(10株当たり)の推移

表4 ‘マリアージュシャルマン’及び対照品種の切り花品質^a

品種	切り花長(cm)	切り花重(g)	花数	側蕾数
マリアージュシャルマン	72.7 ± 12.4	46.7 ± 21.7	4.4 ± 1.0	3.9 ± 3.7
ファンタジー	79.9 ± 15.7	43.3 ± 30.8	4.2 ± 0.9	4.5 ± 3.8
リトルマーベル	66.2 ± 10.6	33.9 ± 17.3	5.5 ± 1.1	7.7 ± 5.4

^a 数値は、平均値±標準偏差

テンダー’に比べ、紫味が強い。一方、裏面は中央部、縁部共に淡紫ピンク(同9502)である(表1, 図3)。

花形は高芯咲き、花弁のタイプは半剣弁で、花弁縁部は波打ち(ウェーブ)がみられる。花弁数は31.3枚で、‘ミミローズ’及び‘ラブミーテンダー’に比べてやや多い。花径は満開時7.1cmで、スプレー品種としては中程度である(表2, 図3)。

花数(側蕾を含む)は1茎当たり8.4輪、側蕾の発生数は少なく、スプレーフォーメーションは花と側蕾の数及び高さがバランス良く配され良好である。花茎の硬さは中程度で、花柄は‘ミミローズ’及び‘ラブミーテンダー’より短い。花持ちは良好で、特に冬期の花持ちに優れる(表3, 図4)。

生産性

切り花としての生産性を検討するために、ガラス温室で比較栽培試験を行った。供試品種は‘マリアージュシャルマン’、対照品種として‘ファンタジー’(花色:ピンク)及び‘リトルマーベル’(花色:朱赤)を

用い、2004年4月に10cm角のロックウールキューブに挿し木を行った。栽培方法はロックウールアーチング栽培、株間10cmの1条植えて2004年6月に定植した。いずれの品種も、1品種10個体を供試し、慣行に従って栽培を行い、切り花本数、切り花長、切り花重、花蕾数、花の形質等について調査した。

その結果、‘マリアージュシャルマン’の総収穫本数は76本で、‘ファンタジー’とほぼ同等、‘リトルマーベル’より30%ほど多く、多収性が確認された。冬期の収量低下はみられず、安定した収量が得られた(図5)。到花日数は秋期58日、冬期64~66日

日でやや長めであった。切り花品質は、平均切り花長72.7cm、切り花重46.7gで、春期にやや切り花長が低下した。花数は4.4輪、側蕾数は3.9輪で‘リトルマーベル’に比べて少なかった(表4)。花茎は硬く、最下部の強めの側枝を除去することにより茎部の曲がり少なく、商品率は高かった(データ省略)。

名前の由来

鮮紫ピンクの花色と美しい花形が、気品あるウエディングを彩るバラとして利用されるよう願いを込めて、フランス語で「結婚」を意味する「マリアージュ(mariage)」と「素敵な」を意味する「シャルマン(sharmant)」を組み合わせ、‘マリアージュシャルマン’と命名した。

今後の取り組み

‘マリアージュシャルマン’は、ネーミングのとおりウエディングでのブーケや装飾への利用の他、誕生日や記念日のプレゼント、フラワーアレンジメント等

への幅広い利用が期待される。

切り花バラ生産を取り巻く経営環境は依然として厳しく、消費の多様化、目まぐるしく変わる流行の中で、品種の寿命は非常に短くなってきている。このような中、生産者そして消費者に長く親しまれ、バラ生産に寄与できる品種、日本の気候や作型及び日本人の嗜好にあったオリジナル品種を育成することが求められている。

神奈川県では、今後もバラ生産者の更なる経営の安定化をめざして、引き続き新品種の育成を行っていく予定である。

謝 辞

本研究の遂行にあたり、神奈川県農業技術センター普及指導部の方々には、現地試験等において多大なご協力をいただいた。また、秦野市農業協同組合顧問林勇博士には本稿のご校閲をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。

引用文献

原 靖英・山元恭介・北浦健生・柳下良美・野崎富士夫. 2006. バラ新品種‘湘南キャンディ シリ

ーズ’の育成. 神奈川農総研報. 147 : 1-6.

林 勇. 1989. 温室バラ新品種‘湘南ファンタジー’の育成経過及び特性. 神奈川園試研報. 38 : 37-41.

農林水産省. 2010. 平成 20 年産花き生産出荷統計. 切り花類ーバラ. 2-1-4.

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061846>

水野信義・林 勇・川嶋千恵. 1993. バラ新品種‘ラブミーテンダー’と‘ブライダルファンタジー’の育成経過とその特性. 神奈川園試研報. 43 : 91-95.

大川 清. 1984. 神奈川県のバラの栽培技術 神奈川県で生まれた切り花用品種 神奈川のバラ. 第15回全国ばら切花研究大会記念誌 : 56-57.

大川 清. 1983. ブライダルソニア及びフレンドソニアの育成経過とその特性. 神奈川園試花き試験成績. 昭 57 : 39-40.

富田裕明・水野信義・川嶋千恵. 1994. バラ新品種‘スターマイン’の育成経過とその特性 神奈川園試研報. 44 : 7-13.